

審査結果の要旨

氏名 深谷優子

本研究は、複数の文章や情報から構成される包括的なテキストの構造的特徴が読解に及ぼす影響について、歴史教科書を取り上げ、文章の意味的なつながりを形成する”coherence”概念に注目し、読解過程と読解支援のあり方を探究することを研究主題としている。本主題に接近するため、歴史教科書の文章記述と構造の分析、教科書読解過程の検討、さらに円滑な読解過程を促すテキスト形成による実験研究という複数のアプローチにより、本主題に迫る実証研究と考察を行っている。

本論文は、問題設定を行った第1章、7つの実証研究を行った第2章から第4章、および総合考察を行った第5章の全5章から構成されている。まず第1章では文章理解研究の先行研究を概観し、包括的テキストとして教科書を検討する意義が論じられる。そして、包括的テキスト研究の分析枠組みとして、”coherence”概念を整理検討し、「接続性」と「一貫性」の2点の分析視点を導出している。続く第2章第1節では、小学校歴史教科書3社の文章記述を接続性の観点から分析し、事象間の関係を記述する際の情報提示順序の逆転等、文章の接続性が低いことを明らかにしている。また第2節では教科書の単元構造の分析から、歴史教科書では欄外情報に多様な様式や視点が含まれることで、著者の意図を組織化する一貫性が低い点を示している。

第3章では、第2章での分析結果を踏まえ、歴史教科書の読解過程を、大学生61名を対象に読解行動と内観、および要点再生課題を実施分析することにより検証している。その結果教科書文章の統合的表象の形成が困難であること、読解中に相互参照手がかりを利用することで統合を図っていることを明らかにしている。また第2節では、読み手の読解における学習目標と要約課題の分析から、歴史教科書の形式が複数視点、形式の異なる複数情報から構成されているために、読み手が構成する表象構造の一貫性が低い点を示している。そして第4章1、2節では、文章記述の局所的接続性を高めるよう修正された中学校歴史テキストを作成し、中学生115名を対象とするオリジナルテキストと修正テキストの読解過程の比較から局所的接続性の修正・改善が安定した記憶表象をもたらすことを示している。また第3節では文章構造の一貫性に関して欄外情報との参照対応を明示したテキストを作成比較することから相互参照によって統合的理解が促進されることを示して実証している。そして第5章では上記の7研究を踏まえ、一環構造明示の効果について総合的に考察を加え、包括的テキストの読解過程への示唆を論述している。

以上、本論文は、読解過程という視点からは従来実証的に論じられることのなかった歴史教科書に焦点をあて、文章記述の構造的特徴から読解過程支援のあり方を明示した点で、独自の知見を示した研究となっており、今後の文章理解研究に重要な貢献をなすものと考えられる。よって、博士（教育学）の学位論文として十分な水準に達しているものとして評価された。